肥料等試験法の附属書

肥料等試験法（2026）の改正に当たり日本産業規格（JIS）の例にならい、情報量が大きい等の理由により個別の試験法に挿入しにくい内容を附属書として、次の記述内容を整理した。

なお、附属書で規定する場合は（規定）と表記し、附属書が参考内容の場合（参考）と表記した。

附属書 A（規定） 試験法の妥当性確認の手順

肥料等試験法に収載しようとする試験法の妥当性を確認するための手順を附属書 A（規定）に示した。

附属書 B（参考） 主成分等の抽出操作の一覧

主成分等の抽出操作は同じものがあり、その抽出した試料溶液は他の成分にも適用できる場合がある。このため、抽出操作が同じものが分かるように一覧として附属書 B（参考）に示した。

附属書 C1（参考） ICP 発光分光分析法における検量線濃度範囲の一覧

附属書 C2（参考） ICP 質量分析法における検量線濃度範囲の一覧

ICP 発光分光分析装置又は ICP 質量分析計を用いた同時分析における混合標準液の調製時に各成分の調製濃度等が分かるように附属書 C1（参考）又は附属書 C2（参考）に示した。

附属書 D1（参考） 可溶性硫黄の試験法に用いる IC カラムの例

同じ官能基を持つカラムにおいても型式によって官能基の結合状態、架橋度などが異なる。測定目的のイオンを分離するためそのカラムに適した測定条件（移動相（溶離液）組成、グラジエントなど）を用いている。このことから、共同試験等で妥当性が確認された測定条件の一覧を附属書 D1（参考）に示した。

附属書 D2（参考） 有機ふっ素化合物の試験法に用いる測定条件例

同じ官能基を持つカラムにおいても型式によって官能基の結合状態、架橋度などが異なる。測定目的のイオンを分離するためそのカラムに適した測定条件（移動相（溶離液）組成、グラジエントなど）を用いている。このことから、共同試験等で妥当性が確認された測定条件の一覧を附属書 D2（参考）に示した。